

厚生労働科学研究費補助金（化学物質リスク研究事業）  
研究成果の刊行に関する一覧表

毒物劇物の事例解析に基づく安全管理創生に関する研究

（主任研究者）：長谷川 和俊 千葉科学大学 教授

研究成果の刊行に関する一覧は、次の1件のみである。

- （1）千葉科学大学：公開セミナー資料「毒物劇物リスク管理セミナー ―毒物劇物を取り扱う事業所の自主保安のために―」、3/5 (2008)

2008年3月24日

「毒物劇物の事例解析に基づく安全管理創生に関する研究」

第五回研究検討評価委員会議事録

1. 日時 2007年11月30日(土) 13:30~16:00
2. 場所 スクワール麹町(東京都千代田区麹町6丁目6番地) 5F
3. 出席者

研究検討評価委員:

出席: 小杉洋市(厚生労働省 医薬食品局 審査管理課 化学物質安全対策室)  
足立達美(千葉科学大学 薬学部 准教授)  
黒川幸郷(社団法人 日本化学会 総務部 担当部長)  
元木祐二(千葉県 健康福祉部 薬務課 薬事審査指導室 副主幹)

欠席: 山本 都(国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部 第三室長)

研究グループ:

出席: 長谷川和俊、関谷正明、大野 晋、飯塚義明

4. 議題

- (1) 「H18年度研究報告書」について
  - a. チェックリストのサンプルテスト
  - b. 危害防止規定
- (2) 運送業、販売業について
- (3) 被害拡大要因の解析について(化学品製造業)
- (4) その他(セミナーの開催予定など)

5. 議事

開催にあたり、長谷川より山本評価委員が所用のため欠席すること及び評価委員交代として元木祐二新評価委員の紹介があり、引き続いて添付資料の確認を行った。

(1) 前回議事録の確認

関谷より、前回の第4回研究検討評価委員会議事録(資料1)の説明があり、原案通り議事録は承認された。なお、長谷川より追加説明として、予算の増額申請が認められなかったため、民間機関との共同研究は出来なくなったこと及びその他の項目は今年度別途行っている旨の説明があった。

(2) 長谷川より、「H18年度研究報告書」が8月に完成し、各都道府県及び各種協会に配布を行ったところ3-4件の問合せをいただいていること、及び「H18年度研究報告書」の内容の説明があった。

また、チェックリストのサンプル試用テスト結果(資料2)について説明があり、この結果を踏まえ一部修正を行うこととなった。

(3) 大野より、「H18年度研究報告書」の中の危害防止規定について説明があった。

これに対し、研究検討評価委員の先生方より下記の指導・要望・コメントが出された。

①小杉評価委員より、84頁の図には危険物責任者は法令上の決まりで一人にして頂きたいとの指導があった。

②さらに小杉評価委員より、事故時の緊急連絡網を追加していただきたいとの要望が出された。

③元木評価委員より、周辺住民等への連絡体制・連絡網も入れて頂きたいとの要望も出された。

さらに、PRTR 法等との連携も含め、周辺住民との連絡体制の強化及びリスクコミュニケーションに努めていただきたいとの要望が出された。

⑤黒川評価委員より、理想的な規範としてのそれなりの内容になっているとの評価コメントがあった。

(4) 大野より、「毒劇物に係わる事故の統計・分析について」(資料 3-1)に関しパワーポイントを用いた説明があった。

大野より追加説明として、輸送業及び販売業では人的ミスが多いのが特徴であるので、教育・マネジメントを強化するような危害防止規定にしていきたいとの表明があった。

(5) 大野より、化学品製造業、輸送業及び販売業のアイテムの比較を行った結果として「事例解析の業種比較」(資料 3-2)に纏めたので、これについてパワーポイントを用いた説明があった。これに対し、研究検討評価委員の先生方より下記の質問・コメントが出された。

①黒川評価委員より、販売業において紛失が多いのは場内管理がちゃんと行われていないためであり、これの予防のため倉庫の査察の実施等の十分な管理を行う必要があることが指摘された。

②さらに黒川評価委員より、輸送業の場合について大企業では輸送をちゃんと行っているが、中小企業の場合には宅配便を使っている話を耳にすることがあるので、こういうことも注意する必要があるとの意見が出された。

③黒川評価委員より事故調査項目が入っていないが、事故届出の事務手続き等のためにも事故調査の項目を是非入れて頂きたいとの要望が出された。一方、小杉評価委員より毒物及び劇物取締法では事故調査は無いとの意見が出されたが、黒川評価委員より諸外国のように日本でも事故調査をし、記録するためと人材育成のためにサンプルとして興味があるので、是非入れて頂きたい。また、厚生労働省からも毒劇物を取り扱う各社に対し、事故調査方法としての一例として FTA 技術取得を推奨して頂きたいとの要望が出された。

(6) 飯塚より、今年度の研究の関連として、「被害拡大要因の解析について」(資料 4)のような解析を自主的に行っているため、これについてパワーポイントを用いた紹介があった。長谷川より飯塚の説明後、プロセス設計に生かせるようにリスクを考えた解析であるとのコメントがあった。

これに対し、研究検討評価委員の各先生方より興味深い解析であるとの意見が多数出された。

(7) その他

長谷川より、「毒物劇物リスク管理セミナー」(参考資料 2)を 2 あるいは 3 月に開催いたしたい旨の表明があり、これに対し黒川評価委員より日本化学会の講演で、「化学と工業」誌の会告に出しては如何かとのサジェスションがあり、この方向でいくこととなった。

以上のように活発な評価及び貴重な要望意見等が多く出され定刻に閉会した。

#### 資料

1. 第 4 回研究検討評価委員会議事録
2. チェックリストのサンプルテスト結果
3. 毒劇物に係わる事故の統計分析について(運送業、販売業)
4. 被害拡大要因解析中間報告

以上

2008年3月24日

「毒物劇物の事例解析に基づく安全管理創生に関する研究」

第六回研究検討評価委員会議事録

1. 日時 2008年3月14日(金) 10:00~13:00
2. 場所 スクワール麹町(東京都千代田区麹町6丁目6番地) 7F
3. 出席者

研究検討評価委員:

出席:古田光子(厚生労働省 医薬食品局 審査管理課 化学物質安全対策室  
微量化学物質専門官)

黒川幸郷(社団法人 日本化学会 総務部 担当部長)

岡本泰三(千葉県 健康福祉部 業務課 薬事審査指導室 技師)

欠席:山本 都(国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部 第三室長)

足立達美(千葉科学大学 薬学部 准教授)

研究グループ:

出席:長谷川和俊、関谷正明、大野 晋、飯塚義明

4. 議題

- (1) H19年度の研究成果(運送業、販売業)について
  - a. チェックリスト
  - b. 危害防止規定
- (2) セミナーについて報告
- (3) その他

5. 議事

開催にあたり、長谷川より今回の第六回研究検討評価委員会が最終回となること並びに山本評価委員と足立評価委員が所用のため欠席すること及び元木祐二評価委員の代理として岡本泰三氏が出席している旨の挨拶があり、引き続いて添付資料の確認を行った。

- (1) 前回議事録の確認  
関谷より、前回の第5回研究検討評価委員会議事録(資料1)の説明があり、2箇所(字句修正のみ)でほぼ原案通り議事録は承認された。
- (2) 大野より、H19年度の研究成果(運送業、販売業)について、まず全体の動向について「事例解析の業種比較」の資料7に基づいて説明があった。  
これに対し、
  - ①黒川評価委員より、末端の業務取扱者(例えば、倉庫の人、店の人等)が毒物劇物の取り扱いの基本として「なぜ～」を教育・訓練し、末端まで「一人危険予知」をすべきであることを周知させる必要がある、との指摘があり、これを踏まえ研究検討評価委員の先生方からもこれに関し種々の議論があった。
  - ②黒川評価委員より、全体としてはよくまとまっているとの評価コメントがあった。
- (3) 大野より、運送業のチェックリストについて資料に基づいて説明があった。引き続き、販売業のチェックリストについても資料に基づいて説明があり、これに関しては両者のチェックリストを比較し3月末までに最終のつめを行なう旨の表明があった。  
これに対し、

- ①黒川評価委員より、輸送に入庫が入っていない指摘があり、これと関係し輸送の出庫、入庫、(返り)までの輸送全体のライフサイクルでの確認が必要であることのコメントがあった。
- ②黒川評価委員より、輸送のルート及び輸送方法のリスク評価について日本では行なわれていない場合が多いとの指摘、並びに法律や規制以外での検討も必要と考えられるとのコメントが出された。これを受け、輸送の毒物劇物危害防止規定7頁に輸送に関するリスク評価を追加することとなった。
- ③黒川評価委員より、販売業における保管についても、自社・自事業所内と外部委託とがありこれを決められた通り法律契約面と実務上の確認により実施する必要があるとのコメントが出された。これを受け、両者を別の章立てで記載することとなった。
- ④岡本評価委員より、2008年7月7日開催の洞爺湖サミットに関わるテロ防止等の通達があるので、特別にタリウム等の譲渡管理と過酸化水素の転用・販売禁止を追加していただきたいとの要望が出された。これに対し大野より、販売業の毒物劇物危害防止規定に明示する方向で修正することが表明された。
- (4) 長谷川より、3月5日開催の「毒物劇物リスク管理セミナー」についてパワーポイントを使った説明があった。申込者107名中参加者95名。内訳は、企業71名、地方公共団体17名、その他(当大学3名、他大学2名、国家公務員1名、無職1名)7名であった。アンケートとしての質問・感想用紙の回収は35枚。内訳として質問に関して15枚、感想に関して34枚であった。
- (5) 長谷川より、毒物劇物の事故統計についてパワーポイントを使った説明があった。毒物劇物事故のリスク評価は、具体的に死者数、重傷者数、軽症者数に重み付けをして行なう。今回は、
- ①事故発生確率(P)は、母数が分からないので事故発生頻度(年間の件数)とした。
- ②被害の大きさ(S)は、労働災害の場合を参考にして同じく、  
死者数：重傷者数：軽症者数=10,000：100：1  
とした。
- ③リスク(R)は、  
 $R=P*S$   
より算出した。
- (6) 長谷川より、この3年間の「毒物劇物の事例解析に基づく安全管理創生に関する研究」について、研究検討評価委員の先生方には研究評価及び種々のご指導・ご鞭撻をいただき、また研究推進のサポートをしていただき、深く感謝している旨の閉会の挨拶があり定刻に閉会した。

#### 資料

1. 第5回研究検討評価委員会議事録
2. チェックリスト(運送業)
3. 危害防止規定(運送業)
4. チェックリスト(販売業)
5. 危害防止規定(販売業)
6. 毒物劇物の事故の推移
7. 「事例解析の業種比較」

以上

著者(代表)：教授 長谷川 和俊

千葉科学大学 危機管理学部 危機管理システム学科  
〒288-0025 千葉県銚子市潮見町3番地

---

厚生労働科学研究費補助金

化学物質リスク研究事業 平成19年度研究報告書

毒物劇物の事例解析に基づく安全管理創生に関する研究(H17-化学一般-005)

平成20(2008)年9月31日 発行

---

著作者 長谷川 和俊

©Kazutoshi Hasegawa, 2008